

チャックテーブル修理可否 参考資料

Rev.2017/8/23

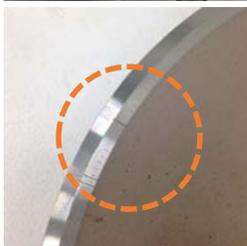
Case1

セットアップ位置を貫通する傷の場合



ポーラスの周辺部（セットアップ位置）が貫通するまで切り込まれていた場合。

※傷がとり切れず、バキュームリークが発生しバキューム圧の低下が予想されます。



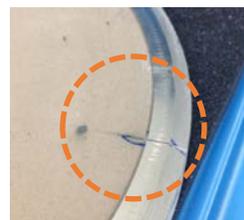
Case 2

セットアップ位置の傷が約500umある場合



爪でひっきりが分かる位の傷がある場合。

※この傷を研磨するとチェックテーブルの厚みの規格から外れます。



Case3

ポーラス貼り付け面に傷がある場合



ポーラス貼り付け面に傷がある場合、そこで凸凹が発生し、バキュームを繰り返すことにより精度が著しく低下しますので修理不可となります。

Case 4

研磨量限界のため次回修理不可



①シリアルナンバーの後に"O"が付いている
※"O"はOverの頭文字です。次回は研磨量限界を超えるため修理不可となります。

例：12345MRRO

②シリアルナンバーの後に"R"が3個付いている
※この場合も次回は研磨量限界を超えるため修理不可となります。

例：12345MRRR

※刻印以外でも厚みを実測した際に研磨量限界と判断した場合も修理不可となります。
傷を研磨するとチェックテーブルの厚みの規格から外れます。